【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第４区分
【発行日】平成17年5月26日(2005.5.26)

【公開番号】特開2002-142400(P2002-142400A)
【公開日】平成14年5月17日(2002.5.17)
【出願番号】特願2000-337726(P2000-337726)
【国際特許分類第７版】
　Ｈ０２Ｋ　5/00
　Ａ６３Ｈ　17/00
　Ａ６３Ｈ　17/26
　Ａ６３Ｈ　29/22
【ＦＩ】
　Ｈ０２Ｋ　5/00　A
　Ａ６３Ｈ　17/00　Z
　Ａ６３Ｈ　17/26　A
　Ａ６３Ｈ　29/22　D

【手続補正書】
【提出日】平成16年7月23日(2004.7.23)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
基体に設けられたモータ収納部にモータを取り付けるモータの取付構造において、前記基体に設けられた所定の回動軸線を中心に回動可能でその回動により前記モータ収納部を開放する開放位置と前記モータ収納部を閉鎖する閉鎖位置とを取り得、前記閉鎖位置で前記モータ収納部に設置される前記モータの胴部を押さえるモータ押さえ板を備え、前記モータ押さえ板は、前記閉鎖位置にあるときに前記基体に設けた係合部に自らの或いは当該係合部の弾性によって係止可能な係止部を有し、前記モータは尻部と胴部に端子が設けられたＤＣモータであり、前記モータ収納部には前記モータの各端子に電気的接続される導体片が設置され、前記モータを前記モータ収納部に嵌め込んだ際前記各端子に前記導体片が電気的接続されるように構成されていることを特徴とする玩具用モータの取付構造。
【請求項２】
基体に設けられたモータ収納部にモータを取り付けるモータの取付構造において、前記基体に設けられた所定の回動軸線を中心に回動可能でその回動により前記モータ収納部を開放する開放位置と前記モータ収納部を閉鎖する閉鎖位置とを取り得、前記閉鎖位置で前記モータ収納部に設置される前記モータの胴部を押さえるモータ押さえ板を備え、前記モータ押さえ板は、前記閉鎖位置にあるときに前記基体に設けた係合部に自らの或いは当該係合部の弾性によって係止可能な係止部を有し、前記モータは尻部と胴部に端子が設けられたＤＣモータであり、前記モータ収納部には前記モータの尻部の端子に電気的接続される導体片が設置され、一方、前記モータ押さえ板は前記モータの胴部の端子に電気的接続されるように導体から構成され、前記モータを前記モータ収納部に嵌め込んだ際に前記モータの尻部の端子に前記導体片が電気的接続され、前記モータが前記モータ収納部に設置された状態で前記モータ押さえ板を閉塞状態にした際に前記モータの胴部の端子に前記モータ押さえ板が電気的接続されるように構成されていることを特徴とする玩具用モータの取付構造。

【請求項３】
前記回動軸線は、前記モータ収納部に設置される前記モータの軸と平行に延在し、前記係合部は、前記モータ収納部を挟んで前記回動軸線とは反対側の位置に設けられていることを特徴とする請求項１又は２記載の玩具用モータの取付構造。
【請求項４】
前記モータ押さえ板は放熱板を兼ねていることを特徴とする請求項１から３いずれか一に記載の玩具用モータの取付構造。
【請求項５】
請求項１～４いずれか一に記載の玩具用モータの取付構造を有することを特徴とする競走用自動車玩具。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００７】
【課題を解決するための手段】
請求項１記載の玩具用モータ取付構造は、基体に設けられたモータ収納部にモータを取り付けるモータの取付構造において、前記基体に設けられた所定の回動軸線を中心に回動可能でその回動により前記モータ収納部を開放する開放位置と前記モータ収納部を閉鎖する閉鎖位置とを取り得、前記閉鎖位置で前記モータ収納部に設置される前記モータの胴部を押さえるモータ押さえ板を備え、前記モータ押さえ板は、前記閉鎖位置にあるときに前記基体に設けた係合部に自らの或いは当該係合部の弾性によって係止可能な係止部を有し、前記モータは尻部と胴部に端子が設けられたＤＣモータであり、前記モータ収納部には前記モータの各端子に電気的接続される導体片が設置され、前記モータを前記モータ収納部に嵌め込んだ際前記各端子に前記導体片が電気的接続されるように構成されていることを特徴とする。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００９】
このモータの取付構造によれば、モータ押さえ板を開放位置まで回動させることにより、モータをモータ収納部に設置でき、その後、モータ押さえ板を閉鎖位置まで回動させ、係止片を基体の係合部に弾性的に係止させることによって、モータを固定できる。一方、基体の係合部に弾性的に係止されている係止片に力を加えてその係止を解除させ、モータ押さえ板を開放位置まで回動させることによって、モータを取り外すことができる。
また、このモータの取付構造によれば、モータ収納部にはモータの各端子に電気的接続される導体片が設置され、モータをモータ収納部に嵌め込んだ際、直ちに、モータの各端子が導体片に電気的接続されることになる。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１０】
請求項２記載の玩具用モータの取付構造は、基体に設けられたモータ収納部にモータを取り付けるモータの取付構造において、前記基体に設けられた所定の回動軸線を中心に回動可能でその回動により前記モータ収納部を開放する開放位置と前記モータ収納部を閉鎖

する閉鎖位置とを取り得、前記閉鎖位置で前記モータ収納部に設置される前記モータの胴部を押さえるモータ押さえ板を備え、前記モータ押さえ板は、前記閉鎖位置にあるときに前記基体に設けた係合部に自らの或いは当該係合部の弾性によって係止可能な係止部を有し、前記モータは尻部と胴部に端子が設けられたＤＣモータであり、前記モータ収納部には前記モータの尻部の端子に電気的接続される導体片が設置され、一方、前記モータ押さえ板は前記モータの胴部の端子に電気的接続されるように導体から構成され、前記モータを前記モータ収納部に嵌め込んだ際に前記モータの尻部の端子に前記導体片が電気的接続され、前記モータが前記モータ収納部に設置された状態で前記モータ押さえ板を閉塞状態にした際に前記モータの胴部の端子に前記モータ押さえ板が電気的接続されるように構成されていることを特徴とする。

【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１１】
　このモータの取付構造によれば、モータ押さえ板を開放位置まで回動させることにより、モータをモータ収納部に設置でき、その後、モータ押さえ板を閉鎖位置まで回動させ、係止片を基体の係合部に弾性的に係止させることによって、モータを固定できる。一方、基体の係合部に弾性的に係止されている係止片に力を加えてその係止を解除させ、モータ押さえ板を開放位置まで回動させることによって、モータを取り外すことができる。
　また、このモータの取付構造によれば、モータ収納部にはモータの尻部の端子に電気的接続される導体片が設置され、モータをモータ収納部に嵌め込んだ際、直ちに、モータの尻部の端子が導体片に電気的接続され、モータがモータ収納部に設置された状態でモータ押さえ板を閉塞状態にした際、直ちに、モータの胴部の端子に前記モータ押さえ板が電気

【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１２】
　請求項３記載のモータの取付構造は、請求項１又は２記載のモータの取付構造において、玩具用モータの取付構造によれば、前記回動軸線は、前記モータ収納部に設置される前記モータの軸と平行に延在し、前記係合部は、前記モータ収納部を挟んで前記回動軸線とは反対側の位置に設けられていることを特徴とする。
的接続される。

【手続補正７】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１３】
　このモータの取付構造によれば、モータ押さえ板の回動軸線はモータの軸と平行に延在しているので、モータ押さえ板によって胴部全体がほぼ均一に押さえられることになる。また、係合部は、モータ収納部を挟んで回動軸線とは反対側の位置に設けられているので、モータ押さえ板によってモータを確実に押さえられる。

【手続補正８】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１４
【補正方法】変更

【補正の内容】
【００１４】
請求項４記載のモータの取付構造は、請求項１から３いずれか一に記載の玩具用モータの取付構造において、前記モータ押さえ板は放熱板を兼ねていることを特徴とする。放熱板として利用するためには、「モータ押さえ板」は放熱効果の高い材質とすることが必要である。そのためには、「モータ押さえ板」を金属、例えば銅やアルミニウムで構成することが好ましいが、放熱効果の高い形状を選択すれば、合成樹脂等（例えばＡＢＳ樹脂）であってもかまわない。
【手続補正９】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１５】
このモータの取付構造によれば、モータ押さえ板は放熱板を兼ねているので、特別な放熱板や放熱構造を設けなくても済むことになる。
【手続補正１０】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１６】
請求項５記載の競走用自動車（レーシングカー）玩具は、請求項１～４いずれか一に記載の玩具用モータの取付構造を有することを特徴とする。
【手続補正１１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１７】
この競走用自動車玩具によれば、走行するコースに応じてモータを交換するのに、単に、モータ押さえ板を回動させれば済むことになる。
【手続補正１２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１８
【補正方法】削除
【補正の内容】

【手続補正１３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１９
【補正方法】削除
【補正の内容】

【手続補正１４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３６】

【発明の効果】
請求項１記載の玩具用モータの取付構造によれば、モータ押さえ板を開放することによってモータをモータ収納部に対して簡単に着脱でき、モータ押さえ板の係止片を係合部に弾性的に係止することによってモータを簡単に固定できることになる。また、モータをモータ収納部に嵌め込んだ際、直ちに、モータの各端子が導体片に電気的接続されるので、モータの取付け・取外しが簡単に行えることになる。
【手続補正１５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３７】
請求項２記載の玩具用モータの取付構造によれば、モータ押さえ板を開放することによってモータをモータ収納部に対して簡単に着脱でき、モータ押さえ板の係止片を係合部に弾性的に係止することによってモータを簡単に固定できることになる。また、モータをモータ収納部に嵌め込んだ際、直ちに、モータの尻部の端子が導体片に電気的接続され、モータがモータ収納部に設置された状態でモータ押さえ板を閉塞状態にした際、直ちに、モータの胴部の端子に前記モータ押さえ板が電気的接続されるので、モータの取付け・取外しが簡単に行えることになる。
【手続補正１６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３８】
請求項３記載のモータの取付構造によれば、係合部がモータ収納部を挟んで回動軸線とは反対側の位置にあるので、モータ押さえ板によってモータを簡単且つ確実に押さえられることなる。
【手続補正１７】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３９】
請求項４記載のモータの取付構造によれば、モータ押さえ板は放熱板を兼ねているので、特別な放熱板や放熱構造を設けなくても済むことになり、玩具の構造を簡素化できることになる。
【手続補正１８】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４０】
請求項５記載の競走用自動車（レーシングカー）玩具によれば、走行するコースに応じてモータを交換するのに、単に、モータ押さえ板を回動させれば済むので、その取扱いが簡単になる。
【手続補正１９】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４１
【補正方法】削除

【補正の内容】